

沼津工業高等専門学校

運営諮問会議報告書

(令和4年度)

令和 4 年 12 月

沼津工業高等専門学校

運営諮問会議

目次

I. 運営諮問会議議事要旨	3
II. 概要説明 沼津工業高等専門学校概要.....	4
III. 諮問事項 説明資料.....	20
1. 関係団体との連携について.....	21
2. 企業から見た学生のキャリア教育のニーズについて	25
3. SDGsの取り組みについて.....	28
IV. 校内視察	31
V. 沼津工業高等専門学校運営諮問会議規則	33
VI. 沼津工業高等専門学校運営諮問会議委員名簿.....	35

I . 運営諮問会議議事要旨

令和4年度沼津工業高等専門学校運営諮問会議 議事要旨



日 時 令和4年11月18日（金）14時30分～17時

場 所 沼津工業高等専門学校 管理棟3階 大会議室

出席者 運営諮問会議委員

- 若原 昭浩 （国立大学法人豊橋技術科学大学 理事・副学長（経営，将来構
想・中期計画，高専連携担当））
- 平岡 俊彦 （東レ株式会社三島工場 工場長）
- 小久保光典 （芝浦機械株式会社 執行役員 R&Dセンター研究開発部長）
- 荒井 賢二 （駿東地区校長会 会長（裾野市立富岡中学校長））
- 河合 隆徳 （沼津工業高等専門学校地域創生交流会 会長）

本校教職員

岡田校長，稲津副校長（総務主事），芹澤校長補佐（教務主事），
佐藤（誠）校長補佐（学生主事），永禮校長補佐（寮務主事），
高野校長補佐（研究主事）兼地域創生テクノセンター長，
大庭校長補佐（専攻科長），新富機械工学科長，大津電気電子工学科長，
鈴木（静）電子制御工学科長，宮下制御情報工学科長，竹口物質工学科長，
小村教養科長，鈴木（久）図書館長，藤尾総合情報センター長，
川上教育研究支援センター長兼技術室長，縣事務部長，矢田部総務課長，
福井学生課長

○校長挨拶

会議に先立ち校長から、本会議は本校の教育・研究、地域貢献、学校運営全般に対し PDCA サイクルの一環として外部有識者を招きご助言を頂戴する取り組みであるとの趣旨説明と、年度計画に反映させる等の学校改善につなげていくため本日の議題について忌憚のない意見をお願いしたい旨の挨拶があった。

○運営諮問委員紹介，学校関係者紹介

司会より，参加者の紹介があった。

○学校概要説明

校長から，資料に基づき，入試や卒業生進路，特色のある取り組みを中心とした本校の概要について説明があった。

【議事】

○議長選出

議長の選出について，運営諮問会議規則第5条第1項に基づき，委員の互選により豊橋技術科学大学副学長 若原昭浩 委員が推薦され承認された。

議長から就任挨拶に続き，各諮問事項の進め方について説明と協力依頼があり，議事に入った。

○議題1．関係団体との連携について

副校長（総務主事）から資料に基づき，本校が技術者養成や技術的・工学的課題解決といった社会の要請に応えるためブランディングの取り組みが必要と考えられ，これには関連団体との連携が重要であることの説明があり，本校を好きになってもらう，信頼してもらうことで本校を選んでもらうため，本校をより良くするブランディングのための取り組みについて，留意点，方向性等について諮問があった。

これを受け，議長から各委員に対し意見照会があり，各委員から主に次のような意見があった。

- ・F-met+における県立病院や国立大学との PBL 型授業など，参加企業による有意義な活動もあり，地域創生交流会は，会員数は増えていないが質で貢献している。
- ・コロナ禍前に，裾野市教育委員会主催の小学生へのプログラミングに関する出前講座で，沼津高専に参画いただいた。定員を上回るほど盛況であり，約3年前当時が小学校にプログラミング教育の導入期だったこともあり大変助かった。出前講座による連携は工学分野のすそ野を広げる活動につながっていると思われる。
 - プログラミング教育が小学校の先生方に実装化したとするならば，連携の成功例と思われる。高専の先生方にその後の状況を伺いたい。
 - 自分が担当し2年間実施したが，現在はコロナ禍で活動が中断している。その後は

裾野市のウーブン・シティ構想の中で、同様の企画で企業や学校が参画する方向で検討中と伺っている。

- ・当社も地域の学校との連携継続は重要と考えている。予定されている機械工学科4年生の工場見学でも企業現場の最先端を知ってもらう準備をしている。当社も小中学生向けに“出張授業”をやっているが、高専も出前授業のようなすそ野を広げる活動は積極的に続けていくべき。
- ・高専と関係団体との連携は必要だが、入学時、在学時、卒業時のどこに目的を置くかは重要。企業の立場からは、会社でどんなことをするのか、それにはどんなスキルが必要かを知るの重要で、5年で就職する学生の時間は限られており、会社に入ってからイメージと違う、ということもある。プロジェクトによる授業も有効だが範囲が狭くなるので、多種多様の業種を勉強してもらう必要もあると思う。

以上を踏まえ、議長から次のとおり答申があった。

- ・関係団体との連携は数も重要だが内容を重視し、委員より紹介のあったような実りある取り組み事例を高専側から提供・発信して、相互の活動により関連団体の参加数増加や連携活性化に繋げてはどうか。
- ・プログラミング教育の出前授業のようなすそ野を広げる活動は、小中学校教員の育成支援を通じた連携強化にもつながるため、沼津高専から小中学校への出前講座は今後も継続してはどうか。
- ・連携の目的について明確にし、例えば就職時を視点とするならば、入社後の仕事内容のイメージが授業やPBL型授業だけでは難しく、どんなスキルが必要か地域企業などステークホルダーから提案を取り入れてはどうか。

続いて、委員と本校の間で次のような意見交換があった。

- ・IT人材不足と言われる近年、企業側から高専にリスクリングは求められているか。
- ・リスクリングの需要はあると思われる。高専では前例がないかもしれないが、富士山麓医用機器開発エンジニア養成プログラム（F-met）や専攻科の医用機器開発工学コースのように、全国に先駆けて沼津高専で実現して欲しい。
- ・沼津高専のF-metはリスクリングの一つかと思う。他高専の参考事例として、豊田高専が豊田市と協議会を設置し、企業の若手技術者が専攻科生と共に新しい技術を学び社内に実装する取り組みを実施している。専攻科生の基礎力を高め、若手技術者の育成にもつながるwin-winの関係の成功事例で、市のコーディネーターが企業のニーズを高専教員にマッチングさせ、毎年新しい講座を立ち上げ専攻科生と一緒にモノを作り上げ、自分の会社の実装できるレベルでのリスクリングを行っている。

○議題2. 企業から見た学生のキャリア教育のニーズについて

校長補佐（学生主事）から資料に基づき、提案理由として、従来のキャリア教育は高学年

になってから専門学科に依存する状況であり、低学年時の「今やっている勉強が将来どこにつながるのか」等のような悩みに十分な対応ができていないこと、コロナ禍で工場見学等ができていないこと、インターンシップのルールが見直されたことに伴う対応見直しの必要性等、本校のキャリア教育の現状と、本年度実施した教育内容、本年度の反省を踏まえた新年度の予定について説明があり、改善点等の諮問があった。

これを受け、若原議長から各委員に対し意見照会があり、各委員から主に次のような意見があった。

- ・世の中でのエンジニアの仕事は、モノを「作る」か「使う」か「売る」かで、圧倒的に「作る」が多い。「作る」ならどのような技術が必要か、非常勤講師として教育にあたる際にはそれを最初に教えている。学校としてキャリア教育を進める上で、低学年の段階で企業では実際に何を使っているか、どんなことが必要かを説明する取り組みをお願いしたい。
- ・「キャリア教育委員会」「COOP 教育委員会」等の教育体制について、学校側からの立場で設置しているのか、学生目線なのか。両方あった方がよいが、これらも踏まえて検討してはどうか。
- ・海外工場見学が本当に必要かどうかと思うが、企業を回る機会については、2年生や3年生など早いうちから増やすようお願いしたい。当社のような素材の会社は製品が目立たないため、理解を深めるため、色々な企業現場を経験させて欲しい。その際は東レも近所なので、ぜひ活用して欲しい。
- ・キャリア教育の説明について、学生への情報提供が中心だが、学生が自分の「できる」「できない」を客観的に評価する機会はあるのか？
→現在検討中である。
- ・本学の就職活動している学生を見ていて、形式にとらわれている学生が多いと感じる。高専も学生が自己分析、人生設計する機会を作って欲しい。
→学生自身が何をやってきたかを振り返る、ポートフォリオ導入を準備中である。
- ・現状、日本の教育ではポートフォリオ制度が機能していないので、高専でしっかり作っていただけると、受け入れる大学側もありがたい。

続いて、次のような委員と本校の間で意見交換があった。

- ・これからは就職にインターンシップが重要視されるとのことだが、企業の立場では、採用にあたりインターンシップの重要性をどの程度と考えているか。
- ・A社のインターンシップの位置付けは、短期間ということもあり、学生が日本の製造業、モノづくりの分野に興味を持ってもらうためのアピールに尽きる、と考えている。
- ・B社もA社とほぼ一緒で、仕事内容よりもどんなことをしているか、10日間でモノづくりの現場を感じ取ってもらうことと考えている。インターンシップが就職に影響する動きに期待はしているが、現状はまだ追いついていない。
- ・C社では4ヶ月の長期インターンシップの学生を受け入れたが、会社で参加した日本内

視鏡外科学会へ参加にあたり当該学生にも参加してもらったところ、大変貴重な経験だったとのことだった。学生にチャンスを与えることもできるため、学生には主体的な活動を期待したい。

以上を踏まえ、議長から次のとおり答申があった。

- ・学生が就職にあたり、モノを「作る」、「使う」、「売る」のどれをやりたいのか見極め、他との技術的な関係性も考え、どのようなスキルを身につける必要があるか理解させるのが大事である。
- ・キャリア教育のデザインにあたり、学生ニーズも取り入れてはどうか。
- ・工場見学等で企業現場を回る機会を増やし、色々な職種を知ることによって世に出回る製品が様々なモノが複雑に絡み合っていることを知り、そのためにポートフォリオのような学生自身が何を身に付けたか、将来設計に結び付ける取り組みをお願いしたい。
- ・日本のインターンシップは、現状では短期が中心であり、企業規模が大きい企業では会社を知ってもらう、興味を持ってもらうことが中心となっている。

なお、長期インターンシップを受け入れた経験がある企業としては、自社のためだけでなく人材育成の場としても活用して欲しいと考えている。日本の社会がどちらに向かっていくかも踏まえ、今後のインターンシップを考えていく必要がある。

また参考として、本学では4年生の1～2月に5週間の海外インターンシップを実施しており、必ずミニプロジェクトに参画させ一つの結果を出すようを課しているが、近年、短期インターンシップが増えるに従い、インターンシップを受け入れた企業に学生が就職せず、新たなインターンシップ受け入れが断られるケースが増えている。日本社会全体で学生と企業のマッチングが課題となっていることから、高専と企業とで議論し最適解を探してはどうか。

○議題3. SDGsの取り組みについて

副校長（総務主事）から資料に基づき、高等教育機関にも推進が求められる持続可能な開発目標について、他大学や本校における現状の説明があり、無理なく教育に取り入れる方策や事項についての諮問があった。

これを受け、議長から各委員に対し意見照会があり、各委員から主に次のような意見があった。

- ・本学の取り組み事例としては、大学としてSDGsのステートメントは出しており、シラバスにもどの科目が何番に対応している旨を掲載しているが、これは対外的なアピールとしてはよいが、教員毎に千差万別で体系立てた教育ができているかは一概には言えない。形だけではダメで、学生にSDGsを考える意義を促すプロジェクトを検討している。沼津高専でも17の項目のうちの何番と何番を身に付けた人材を育成する、というような目標を設定してはどうか。
- ・高専、会社とも何かしらSDGsへ少しづつ貢献はしているとは考えられるが、会社でも

インパクトがあるものが求められるため検討している。高専も、研究テーマなどでアピールできるものが出ると良いのではないかと。

- ・中学校では生徒に SDGs の視点で物事を捉える啓発を行っている。取り組みを無理やり SDGs の項目に紐づけしても効果はないのでは思うので、高専には、テクノロジーで社会的課題を克服していく、普段から SDGs の視点で考える機会を増やして、意識を持った学生の育成に期待している。
- ・本日の議題 1 で関係団体との連携が挙げられていることもあるが、沼津高専には、17 番の「パートナーシップで目標を達成しよう」という項目に取り組んではどうか。
- ・工場経営でも生産現場や管理の中で、コストやロスを減らすという行動が SDGs の何かの項目に繋がっていると考える。同様に高専も、普段の研究テーマ等の課題が必ず SDGs のような社会貢献に繋がる要素があるのではないかと考えられる。それを学生に意識できるような教育をしていただければ十分ではないかと思う。寮生活のような共同生活も SDGs になるのではないかと。

続いて、本校から次の意見があった。

- ・SDGs とは、17 の項目のいくつかの組み合わせにより循環社会を生むという考えであり、SDGs 教育とは項目の組み合わせにより生み出される持続可能な循環社会について、自分の持つ要素や技術がどのように貢献できるかを考えさせるものと考えている。

以上を踏まえ、議長から次のとおり答申があった。

- ・技術者教育で教えられるのは要素技術だけで、それだけではモノは作れないし社会は動かない。キャリア教育と同様、お互いに関連しあって一つのモノができる、これを知ることが大事である。豊橋技科大でも、循環させるという形で発案したものを実装させて違うことが起こることを体験させることが根底にある。高等教育機関の SDGs とは、これらを普段から皆で議論できるポテンシャルを備えた人材を育成することがゴールであると考えられる。
- ・先程の沼津高専からの意見にあったとおり、SDGs 教育は、これらをホームルームに取り入れ、学生自身が循環社会について毎回議論し、意識させ意見を持つよう指導してはどうか。

○その他

議長からその他について照会があったが、特になかった。

○議事終了

以上の諮問に対する答申をもって若原議長から議事を終了する旨の発言があり、議長職が解かれた。

○校長挨拶（謝辞）

会議終了に際し校長から、関係団体との連携について、win-win の関係を超えた本校への愛情に対し我々もどのような形で貢献できるか、これからも議論させていただきたいこと、キャリア教育について、今までの体制が決して良くないと認識しており、いただいたご意見を反映していきたいと考えているとの発言があり、引き続きご指導ご助言を賜りたい旨の依頼と謝辞があった。



Ⅱ. 概要説明 沼津工業高等専門学校概要



- 沼津高専の特徴**
- * 静岡県東部地域唯一の工学系高等教育機関であり、地域からの期待は大きい
 - * 隣接する神奈川県・山梨県に国立高専がないため、広域から学生が集まる
 - * 周囲には大企業から中小企業まで多くの事業所があり、学生のインターンシップ・就職先には事欠かない
 - * 新幹線駅が近く、交通の利便性が高い

概要

校長	岡田 哲男		
教員	76名	事務系職員	34名
校長	1名	技術系職員	13名
教授	34名		
准教授	32名		
講師	1名		
助教	8名		

【令和4年4月1日現在】

所在地 静岡県沼津市大岡3600

創立 昭和37年4月1日

本科
 機械工学科
 電気電子工学科
 電子制御工学科
 制御情報工学科
 物質工学科
 教養科（一般科目）

学生総数 本科 1,013名 (185名)
 留学生 7名
 専攻科 62名 (13名)

学生定員 本科 1,000名 (40名×5学科×5学年)
 専攻科 48名 (24名×2学年)

専攻科 総合システム工学専攻(3コース)
 環境エネルギー工学コース
 新機能材料工学コース
 医療福祉機器開発工学コース

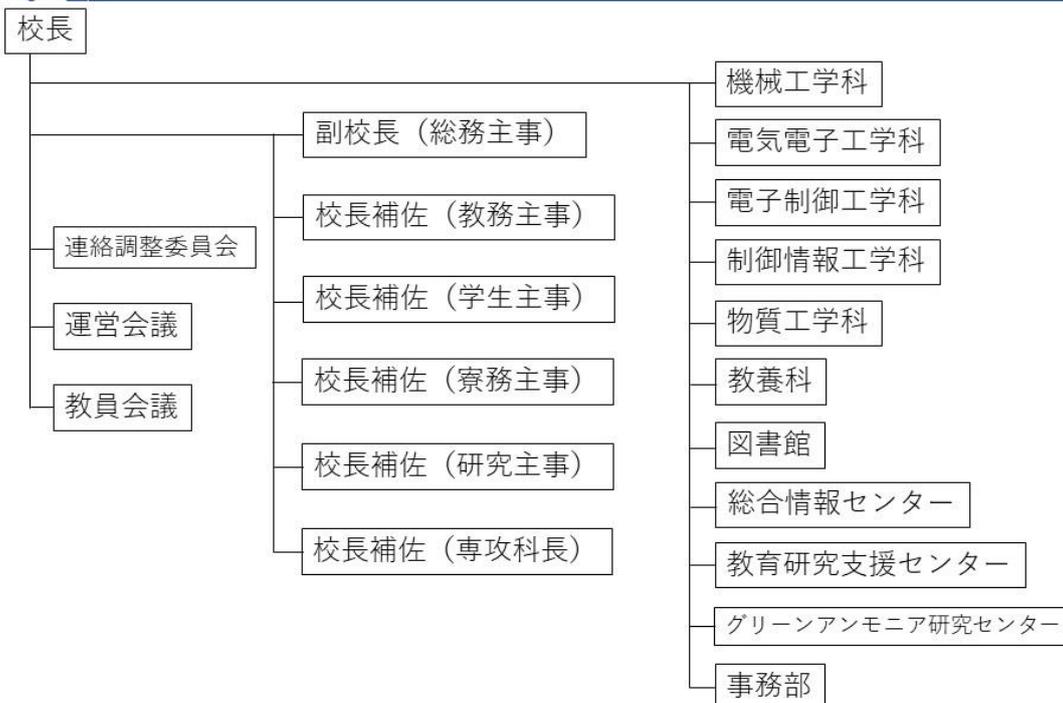


沿革

- 昭和37年（1962年） 機械工学科2学級、電気工学科1学級が設置
- 昭和41年（1966年） 工業化学科1学級が設置
- 昭和61年（1986年） 電子制御工学科1学級が設置
- 平成元年（1989年） 工業化学科が物質工学科に改組
- 平成 4年（1992年） 機械工学科（2学級）が
機械工学科（1学級）と制御情報工学科（1学級）に改組
- 平成 8年（1996年） 専攻科（3専攻）が設置
 - 機械・電気システム工学専攻
 - 制御・情報システム工学専攻
 - 応用物質工学専攻
- 平成11年（1999年） 電気工学科が電気電子工学科に改組
- 平成16年（2004年） 独立行政法人国立高等専門学校機構に帰属
- 平成26年（2014年） 専攻科（3専攻）を
総合システム工学専攻（1専攻3コース）に改編
 - 環境エネルギー工学コース
 - 新機能材料工学コース
 - 医療福祉機器開発工学コース
- 令和 4年（2022年） 創立60周年

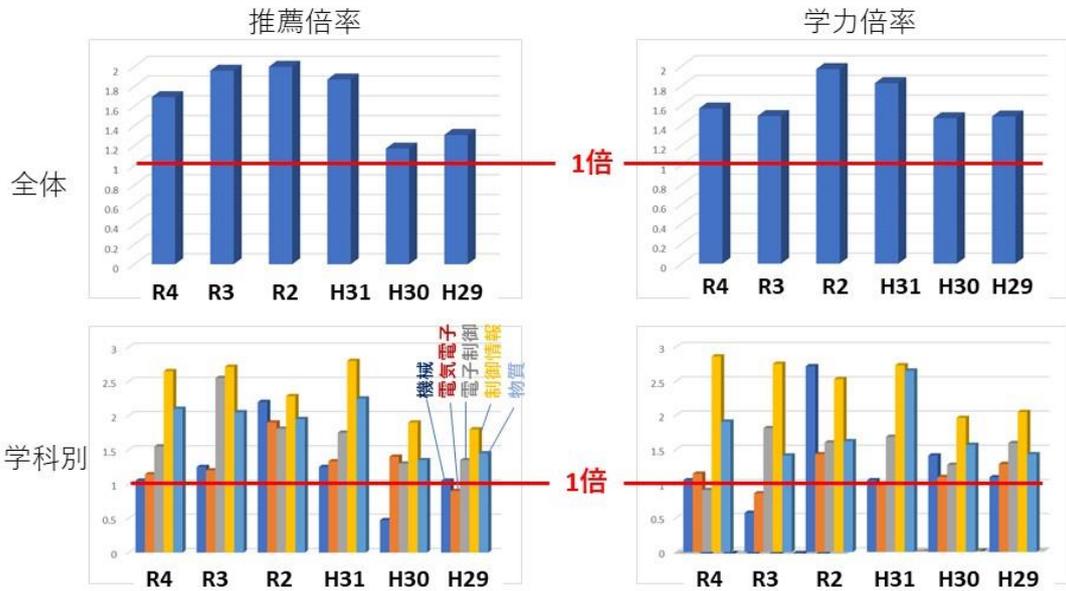


ガバナンス体制





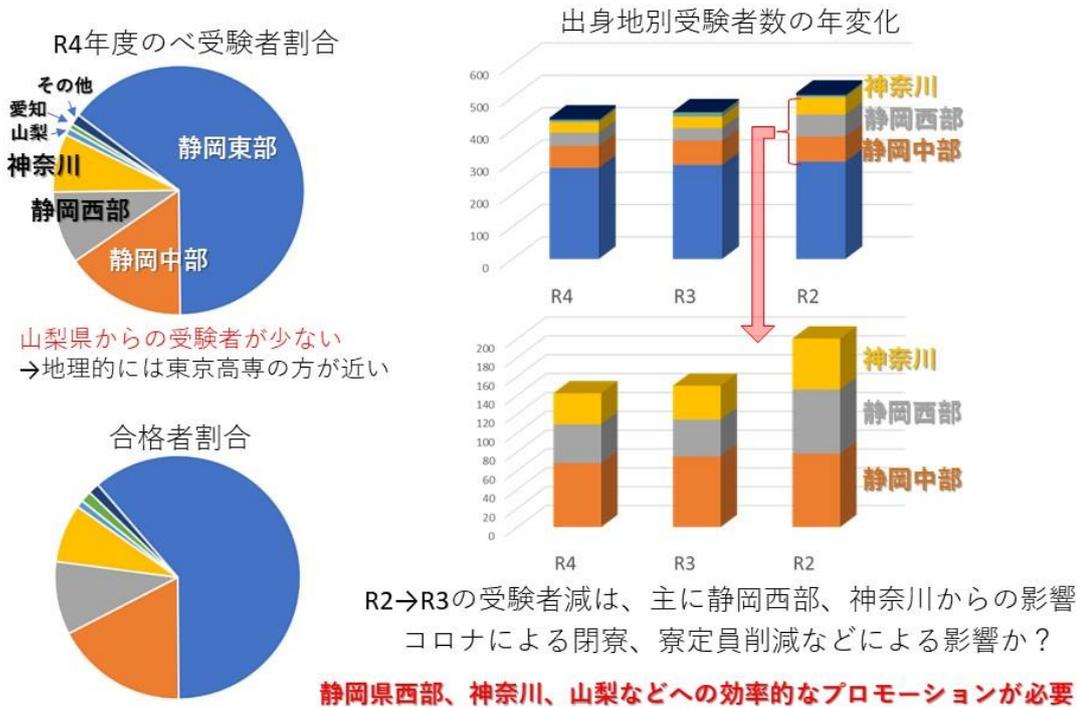
入試の状況全般



- ・ 全体倍率(概ね1.5倍)は、**制御情報**の高倍率で維持されている
- ・ R2の高倍率を除くと、**機械**の倍率は低迷。**電気電子**も同様



受験者出身地





卒業生進路

本科

	人数	割合
就職	105	0.53
進学	87	0.44
その他	5	0.03
計	197	

進学(大学編入、専攻科進学)

専攻科

	人数	割合
就職	12	0.52
進学	10	0.43
その他	1	0.04
計	23	

進学(大学院進学)

東レ関連企業、旭化成、アステラス製薬、京セラ、協和キリン
キャノンメディカルシステムズ、小松製作所、浜松ホトニクス、
ファナック、明電舎、矢崎総業、出光興産、テルモ、東海旅客鉄道、
任天堂、パナソニック 等

豊橋技科大、長岡技科大、筑波大、東京農工大、東工大、東北大
横浜国大、東京都立大、名古屋大、北大、九大、静岡大 等

学生の活躍

(1) 高専ロボコン2021全国大会において、ロボコン部の「チャリモ」が「ロボコン大賞」を受賞



(2) 令和2年度パテントコンテスト・デザインパテントコンテストにおいて、知財のTKY（寺子屋）の「ハトギプロジェクト」が「特許庁長官賞」を受賞



学習サポートセンター

学生が勉強の悩みや授業でわからないことを解決するための場所です。図書館1階ロビーにある学習スペースにて運営しています。開放的な「Fuji café」では教員に気軽に質問したり、学生同士で教え合ったりするほか、一人で自習することもできます。小教室「礎塾^{いしづえ}」では講義形式でのワンポイントレッスンが行われたり、教員が学生の勉強の悩み事を聞いたりしています。



学生寮

寮の敷地は学校の北東に位置し、敷地内には翔峰寮・栄峰寮・光峰寮・優峰寮・清峰寮・明峰寮（女子寮）と、最近竣工した秀峰寮（混住型国際寮）の7棟があります。

現員404名（含・留学生7名）：男子331名、女子73名
（定員583名） 【2022年6月14日現在】



沼津高専特別課程 富士山麓医用機器開発エンジニア 養成プログラム (F-met)

講義内容	
<p style="text-align: center; border: 1px solid #e91e63; padding: 2px;">I 医用基礎技術科目</p> <p style="text-align: center; border: 1px solid #e91e63; padding: 2px;">I-①薬事申請・関連法規基礎講座</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 開講期間／4月～5月 ● 業手法他、医療機器に関する製造販売や技術者の知るべき項目について学習 <p style="text-align: center; border: 1px solid #e91e63; padding: 2px;">I-②医用工学基礎講座</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 開講期間／6月～7月 ● 基本的な材料特性及び生体への影響、生体計測に対する基礎知識、方法を学習 <p style="text-align: center; border: 1px solid #e91e63; padding: 2px;">I-③医用機器概論</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 開講期間／8月～9月 ● 医療現場で使用する主な機器の名称、使用法、安全管理や取扱いについて学習 	<p style="text-align: center; border: 1px solid #e91e63; padding: 2px;">II 医用先端技術科目</p> <p style="text-align: center; border: 1px solid #e91e63; padding: 2px;">II-①医療品質安全工学基礎講座</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 開講期間／10月 ● 企業の現場で必要とされる品質管理・安全管理や開発～生産までの各段階で必要となるシステムについて学習 <p style="text-align: center; border: 1px solid #e91e63; padding: 2px;">II-②医用機器産業基礎講座</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 開講期間／11月～12月 ● ロードマップを作成し、経営者を含めた医療分野参画への戦略の構築を行う <p style="text-align: center; border: 1px solid #e91e63; padding: 2px;">II-③先端医用・介護技術講座</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 開講期間／1月～2月 ● 最先端の医療・介護技術の動向を学習(オムニバス形式) <p style="text-align: center; border: 1px solid #e91e63; padding: 2px;">II-④医用機器開発演習</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 開講期間／3月 ● 病院・介護施設等で得られたニーズ等に基づき、医療機器の開発の基礎を学習

- ✓ 県東部地域を中心とする静岡県「ファルマバレープロジェクト」の1事業
- ✓ 静岡県東部地域は国から「ふじの国 先端医療 総合特区」に指定され、本プログラム修了者は「**医療機器 総括製造 販売責任者及び責任技術者**」の資格要件である**3年間の業務従事経験が免除**
- ✓ **12年間に99名の修了生を輩出 (R4年度8名入学)**
- ✓ 令和3年度より「総合特区」に山梨県の7つの市町が合流

2021年度地球規模課題対応国際科学技術協力プログラム (JST/JICA) SATREPSに採択

- ・ テーマ名：再生可能エネルギー水素を用いた新しいアンモニア合成システムの研究開発
- ・ 研究代表者：秋鹿研一（沼津高専・客員教授）
- ・ 相手国研究先：南アフリカ共和国・ノースウエスト大学



再生可能エネルギー電力の安価な南アフリカ側で水電解水素製造技術を、日本側でアンモニア製造技術を開発し、エネルギーキャリアとしてのグリーンアンモニアの利活用を拡大することを目的とする。グリーンアンモニア製造は小型分散型となるため新技術が必要であり、特に合成触媒と分離材料が重要とされる。本研究では日本側で実績のある合成触媒と分離剤を用いた新しいシステムを開発する。また、そのミニパイロット装置を制作してノースウエスト大学に設置される水電解装置につなげて運転することにより、実用サイズ（1日当たり60トン）のプロセス設計のためのデータを取得する。新技術によるグリーンアンモニア製造ユニットが開発され、現在石炭への依存度が高い南アフリカで再生可能エネルギーの利用が拡大されるとともに、日本のグリーンアンモニア技術が世界へ向けて製造とサービスを行う産業となることを目指す。



沼津高専内に「**グリーンアンモニア研究センター**」を設置

地域連携



科学技術相談
共同研究・受託研究等
研究シーズの情報提供
社会人向けの公開講座
各種イベント出展

静岡県東部テクノフォーラムin沼津高専
富士山麓アカデミック&サイエンスフェア

未来創造ラボラトリー

中小企業の研究開発
共同教育
学内インターンシップ

学生が研究のスタッフとして参加するで教育にも貢献

沼津市、三島市、両市の商工会議所、地域信用金庫、
沼津高専同窓会、沼津高専地域創生交流会、
沼津高専とともに歩む議員連盟などと連携

沼津高専サテライトオフィス (N-com)

「ぬましんCOMPASS」(JR沼津駅北口徒歩5分)内に沼津高専サテライトオフィス(N-com)を設置し、産学連携活動、公開講座、課外活動などに活用し情報発信を行っています。



Ⅲ. 諮問事項 説明資料

1. 関係団体との連携について

関係団体との連携

本校が技術者養成と技術的・工学的課題の解決を通して社会の要請に応えるためには、在學生、保護者、卒業生、地域の企業、教育機関、自治体、住民(ステークホルダー)からの理解と協力が必須です。

- ・ 学生への技術者教育
- ・ 研究活動



「本校をよく知ってもらい、好きになってもらい、信頼してもらって、それぞれの立場から支持、支援いただく(ブランディングの)」取り組みが必要と捉えることができ、関係団体との連携が成否に重要です。

諮問事項1：関係団体との連携

連携の現状

本校の関係団体（複数の個人や法人）

- ・ 教育後援会(在校生/卒業生の保護者)
- ・ 同窓会(卒業生)
- ・ 地域創生交流会(協力企業)
- ・ 地域の商工会議所や工業団地組合等の産業団体
- ・ 小中学校（教育委員会）
- ・ 沼津高専と共に歩む議員連盟

連携の現状

- ・教育後援会(在校生/卒業生の保護者)
 - 学生の課外活動，研究活動等への費用面での支援
 - 理事会や支部会での意見/情報交換
 - 高専祭や体験授業等での受験生保護者むけ相談

- ・同窓会(卒業生)
 - 学生の就学支援，学校活動全般等への支援
 - 学生の就職活動への支援(模擬面接)
 - 理事との意見/情報交換→ホームカミングデー試行
 - 本校主催行事(高専祭,テクノフォーラム)での企業展示

いずれからもコロナ禍での設備・物品の整備で，迅速にかつ十分な支援をいただきました。

連携の現状

- ・地域創生交流会(協力企業)

年度	開催日	内 容
2018	7/11 (水) 13:30~17:00	・沼津高専教員の研究事例紹介 (3件) ・本校施設見学 ・交流会
2019	7/12 (金) 13:30~17:00	・授業見学 ・沼津高専教員の研究事例紹介 (3件) ・沼津高専とともに歩む議員連盟の発表 ※沼津高専とともに歩む議員連盟との合同開催
2020	2/10 (水) 15:00~16:40 ハイブリッド	・沼津高専教員の研究事例紹介 (6件) (オンサイト参加は少数，ほとんどがリモート参加)
2021	1/26 (水) 15:00~17:00 遠隔	・沼津高専教員の研究事例紹介 (3件) ・地域創生交流会の発表 ・沼津高専とともに歩む議員連盟の発表 ※沼津高専とともに歩む議員連盟との合同開催

- ・会員企業であることの恩恵をいかに出すかが課題
- ・いくつかの高専の類似団体に比べて会員企業数もその増加数も劣る

連携の現状

- ・地域の商工会議所や工業団地組合等の産業団体
定例集会への参加
本校実施イベント(テクノフォーラム等)への後援
サテライトキャンパススペースの提供
技術相談あっせん
- ・小中学校（教育委員会）
一日体験入学(オープンキャンパス)等イベント紹介
出前授業，公開講座
- ・沼津高専と共に歩む議員連盟
地域創生交流会に準じる

ブランディングの取り組みとして

- | | |
|------------------|----------|
| ○本校をよく知ってもらう | →◎に！ |
| ?好きになってもらう | →アンケート？ |
| ?信頼してもらう | →活動の質と量？ |
| ○それぞれの立場からの支持/支援 | →◎に！ |

選ばれ続け、輝く学校となるために、学校の運営(経営)に「対応力」と「らしさ」をもたさせて、競争優位性を創出する必要があります。

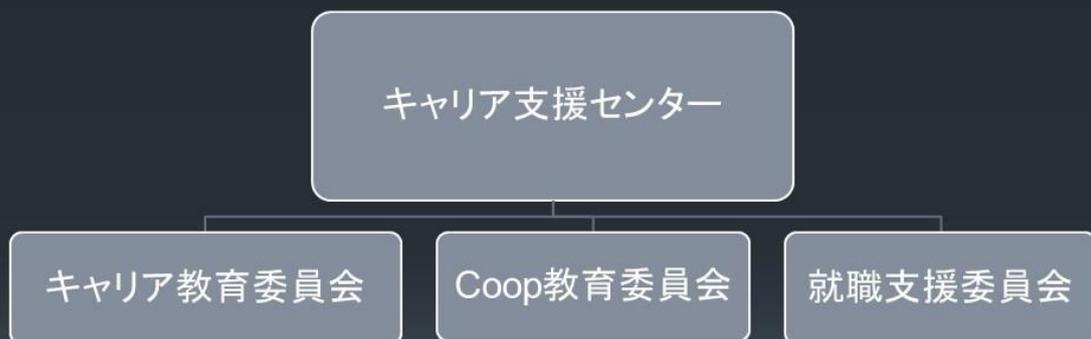
留意点や方向性等のご意見，ご助言をお願いいたします。

2. 企業から見た学生のキャリア教育のニーズについて

沼津工業高等専門学校の キャリア教育について

学生主事 佐藤 誠

本校におけるキャリア教育体制



令和4年度のキャリア教育内容(概要)

- 1年:主として,上級生(就職・進学決定者,4年生,専攻科生)や卒業生による講話
- 2年・3年:企業インタビュー(メディア総研主催)
- 3年:インターンシップ企業説明会(SBS主催,マッチング会)
- 3年:Futureしずおか(SBS主催,各クラス2社,企業の方より講演)
- 4年:インターンシップの実施
- 4年:工場見学
- 4年:就職祭(SBS主催)
- 5年:就職面接指導

令和5年度のキャリア教育予定

- 1年次におけるキャリア教育スケジュール及びその内容に関するガイダンスの実施
- 3年次における履歴書・エントリーシート作成練習ならびに適性検査の実施
- 4年次以外での工場見学の実施
- 高専キャリアサポートシステムの利用
- メディア総研の就職情報サイト「高専プラス」、学研みらいの進学に関するリモート講座の紹介
- 企業の方による講演(Futureしずおか:SBS),学生による企業の方へのインタビュー(メディア総研・SBS)等

3. SDGsの取り組みについて



SDGsへの取り組み

2015年に国連が採択した、SDGs(持続可能な開発目標)は現在、「目指すべきもの」として認知されています。

教育機関においては、我が国が2002年に提唱した、ESD(持続可能な開発のための教育)が、学習指導要領に明記され、高等教育機関にもその推進が文科省から依頼(26文科統第156号, 2014)されています。

国際社会からの要請として必然であることのほか、産学官連携の推進や現代の若い世代の感覚やニーズがあることが理由にあげられ、対外的ブランドイメージの向上、受験生へのアピールにも言及されています。このほか、高等教育機関が知のエキスパートと位置付けられるなど、SDGsに取り組む意義は高いとされています。

諮問事項3：SDGsへの取り組み

大学等の現状

- ・ 全学的ステートメントの発信。
- ・ SDGsを意識したり、特化した組織や部局の設置あるいは活動の推進、および関連授業科目の明示

山梨大学で学ぶSDGs

SDGs関連授業科目

山梨大学は、「教育学部」「工学部」「生命環境学部」「医学部」の4学部で構成され、大学院は、教職大学院課程の「教育研究科」、医学、工学、生命環境学の領域を融合した「医工農学総合教育部」を設けております。それぞれの専門分野で学ぶ学生が、SDGsの理解を深め、SDGsの課題について積極的に向き合っています。各学部・大学院の授業科目でSDGsに関連した科目を公開いたします。

SDGs関連授業科目の紹介

SDGsから社会を考える

全学共通科目/担当教員名：日永 龍彦 (大学院総合研究部教育学域・教授)



国連のSDGs(持続可能な開発目標)をテーマにして世界や日本とりわけ山梨の将来に目を向け、社会の動きを知り、それらに対する自分の意見や学修上の課題を整理した上で、チームで課題解決に取り組み、コミュニケーションスキルや課題解決能力の基礎を身につけることを目指します。

本校の現状

- ・ 授業

いくつかの授業科目でSDGsに触れられている。

- ・ 実験・研究

テーマの社会的意義を伝える手段としてSDGsに言及。

- ・ 課外活動

活動によって異なるレベルでSDGsに関わっている。

いずれも教員裁量で、学校として教育内容に取り入れては
いない（課程内に計画して取り入れていない）。

本校(高専)で教育に無理なく取り入れる方策や取り入れるべき
事項、レベルについてご意見をお願いいたします。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



IV. 校内視察

運営諮問会議委員による校内視察

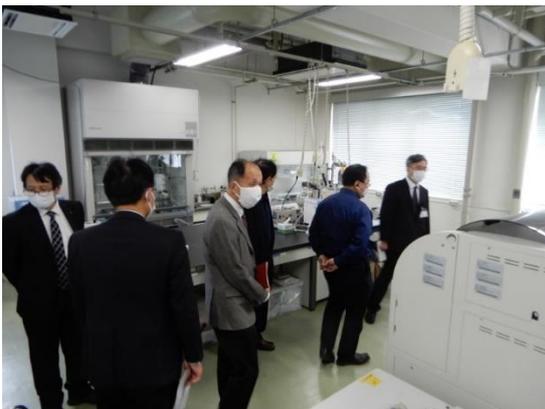
運営諮問会議に先立ち、混住型学生寮（秀峰寮）・教育研究支援センター・地域創生テクノセンター・授業参観・学生支援ゾーン・学習サポートセンターを視察いただきました。



混住型学生寮（秀峰寮）



教育研究支援センター



地域創生テクノセンター



授業参観（電子制御工学科）



学生支援ゾーン



学習サポートセンター

V. 沼津工業高等専門学校運営諮問会議規則

沼津工業高等専門学校運営諮問会議規則

(設置)

第1条 沼津工業高等専門学校（以下「本校」という。）に本校以外の有識者による沼津工業高等専門学校運営諮問会議（以下「諮問会議」という。）を置く。

(目的)

第2条 諮問会議は、本校の学校運営全般について、指導及び助言を行い、本校の健全な学校運営を支援することを目的とする。

(任務)

第3条 諮問会議は、次の各号に掲げる事項について、校長の諮問に応じて審議し、及び校長に対して助言を行うものとする。

- (1) 本校の中期目標、中期計画及び年度計画に関する重要事項
- (2) 本校の教育及び研究活動に関する重要事項
- (3) その他、本校の運営に関する重要事項

(組織)

第4条 諮問会議の委員は、人格識見が高く、かつ、本校の振興発展に関心と理解のある学外有識者で、次の各号に掲げる者のうちから、校長が委嘱する委員をもって組織する。

- (1) 大学等高等教育機関の関係者
 - (2) 産業・経済界の関係者
 - (3) 本校が所在する地域の関係者
 - (4) 本校の支援団体等の関係者
- 2 諮問会議は、必要と認めるときは、委員以外の者の出席を求め意見を聴くことができる。

(議長)

第5条 諮問会議に議長を置き、その議長は委員の互選をもって充てる。

- 2 議長は、諮問会議の会務を総括する。
- 3 議長に支障があるときは、あらかじめ議長が指名した委員が職務を代行する。

(任期)

第6条 委員の任期は2年とする。ただし、再任を妨げない。

- 2 前項の委員に欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(事務)

第7条 諮問会議の事務は、総務課において処理する。

(雑則)

第8条 この規則に定めるもののほか、諮問会議の運営に関し必要な事項は、諮問会議が別に定めるものとする。

附 則

1. この規則は、平成21年4月1日から施行する。
2. この規則の施行後、最初に委嘱された委員の任期は、第6条第1項の規定に係わらず平成23年3月31日までとする。

VI. 沼津工業高等専門学校運営諮問会議委員名簿

令和4年度沼津工業高等専門学校運営諮問会議委員

整理 番号	氏名	現職	規則根拠
1	若原 昭浩	豊橋技術科学大学 理事・副学長 (経営, 将来構想・中期計画, 高専連携担当)	規則第4条第1項第1号委員 (大学等高等教育機関の関係者)
2	平岡 俊彦	東レ株式会社三島工場 工場長	規則第4条第1項第2号委員 (産業・経済界の関係者)
3	小久保 光典	芝浦機械株式会社 執行役員 R&Dセンター研究開発部長	規則第4条第1項第2号委員 (産業・経済界の関係者)
4	鈴木 誠一	株式会社エステック 代表取締役	規則第4条第1項第2号委員 (産業・経済界の関係者)
5	荒井 賢二	駿東地区校長会 会長 裾野市立富岡中学校長	規則第4条第1項第3号委員 (本校が所在する地域の関係者)
6	大橋 武志	沼津市立門池中学校長	規則第4条第1項第3号委員 (本校が所在する地域の関係者)
7	河合 隆徳	沼津高専地域創生交流会会長 株式会社フジネット代表取締役社長	規則第4条第1項第4号委員 (本校の支援団体等の関係者)
8	長岡 善章	沼津高専同窓会 会長 株式会社アーティスティックス代表取締役	規則第4条第1項第4号委員 (本校の支援団体等の関係者)

(敬称略)

運営諮問会議報告書

(令和4年12月発行)

沼津工業高等専門学校 総務課

〒410-8501 沼津市大岡 3600

TEL 055-926-5767

FAX 055-926-5700

URL <https://www.numazu-ct.ac.jp>